

安心登山者養成講座を受講しませんか

「安心登山者養成講座」も、この11月で5期10年を終了、12月より第6期11年目がスタートする。

本講座は、自立した登山者育成をめざして10年前、「登山リーダー養成講座」と銘打ってスタートした。しかし、当時は中高年登山ブームの延長線上にあって、若い人の姿はなく、「リーダー」などと大上段に振りかぶっては敬遠される、という意見が強くなり、「安心登山者養成講座」と講座名を変更、現在に至っている。

講座名変更に伴い、各回のテーマ名も優しい名称に呼び変えた。「雪山登山入門」は、「雪も知っていれば怖くない」とか、「スノーハイキングの楽しみ方」という具合に、だ。硬派の岩崎としてはちょっと気に入らなかったが、それで集客力が向上するなら、善しとしてきた。

山ガールが牽引したのか、昨年あたりから若い登山者が増えてきた。嬉しい現象ではある。しかし、ちょっと甘いなど、ぼくは感じるのだ。山はディズニーランドではない。そこは非日常世界、危険がいっぱいだ。危険な発言だが、山は危険がいっぱいだから面白い。

登山者が増えている、と言われているが、いま増えている登山者は、その危険に気が付かない、というか、そういった危険を知らない。東丹沢の大山でも、高尾山の稲荷山尾根でも、京都の愛宕山でも、午後、下り始めたぼくらがもうひと頑張り下山完了という辺りで、登ってくる人とすれ違う。「こんにちは」、なんの屈託もなく挨拶してすれ違い、迷いもなく山頂を目指していく。陽が暮れちゃったらどうするんだろう。

「雪山登山入門」を、「雪も知っていれば怖くない」などと呼び変える姿勢も、甘さを助長してきた、という反省がある。実際、遭難事故は増加している。

ぼくの現役時代、沢山あった山岳会は、どこも登山学校としての役割を担っていた。「登り優先」も、「早出早着き」も、「地図の読み方」も、「観天望気」も、登山百般、先輩からフェイス・ツー・フェイスで教えて貰った。月一回の訓練山行で先輩たちは手弁当で基本を教えてくれる。基本を教えると、次は自分たちで勉強してこい、と山に放り出されたものだ。新人同志、自分たちだけで山に登る。これが良かった。言い様のない、怖さがある。その怖さを乗り越えるために、知識を学び、技術を身につけ、仲間の必要性を実感し、登山力を高めていった。そんな山岳会が、いまない。

「安心登山者養成講座」第6期スタートを機に、登山は危険という前提を明快にした講座展開をめざす。「雪も知っていれば怖くない」ではなく、「雪山登山入門」。12月21日(水)開講、机上講座「雪山登山入門」を受けての実技教室「雪上技術講習会」は、1月8日(日)～9日(月・祝)富士山吉田口登山道6合目付近で実施する。興味ある方は、無名山塾 ☎03・3941・3481 に資料を請求して下さい。